

令和4年度 第1回志摩市総合教育会議 事項書

日時：令和4年7月19日（金）午後1時30分～

場所：志摩市役所5階 庁議室

1. 開会

2. 議題

（1）市内県立高等学校の活性化について

- ① 市内県立高校の現状
- ② 市内県立高校に期待すること

3. その他

市内県立高校の状況

志摩地域の高校（全日制）の入学定員と入学者数・欠員数の推移

学校名	平成29年度			平成30年度			平成31(令和元)年度			令和2年度			令和3年度		
	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数	入学定員	入学者数	欠員数
志摩	120	109	11	120	111	9	120	107	13	80	77	3	80	51	29
水産	80	80	0	80	80	0	80	70	10	80	57	23	80	61	19

市内中学からの進学と県外からの入学生の状況

入学年度	志摩高校(地元中学:志摩市内中学)			志摩高校 県外入学生
	志摩市内中学出身者	志摩市内中学卒業生数		
H29	99	22.0%	449	0
H30	98	22.7%	432	0
H31	90	22.5%	400	0
R2	72	18.5%	389	0
R3	47	15.0%	313	0

入学年度	水産高校(地元中学:志摩市内中学)			水産高校 県外入学生
	志摩市内中学出身者	志摩市内中学卒業生数		
H29	67	14.9%	449	3
H30	54	12.5%	432	4
H31	48	12.0%	400	4
R2	40	10.3%	389	2
R3	37	11.8%	313	8

市内県立高校の状況

志摩市の中学校卒業生進学先の推移

中学校	卒業生数	全日制 高専 進学者数	県立					私学			伊勢市内高校		鳥羽	商船	志摩		水産		南伊勢		管外	その他
			山田	伊勢	伊工	山商	明野	皇學	伊学										度会	南勢		
平成28年度	449	434	49	43	16	39	17	49	8	12.7%	221	49.2%	4	14	99	22.0%	67	14.9%	0	0	29	15
平成29年度	432	418	40	49	16	34	20	45	8	12.3%	212	49.1%	0	21	98	22.7%	54	12.5%	0	1	32	14
平成30年度	400	384	41	39	23	37	11	36	10	11.5%	197	49.3%	4	13	90	22.5%	48	12.0%	0	0	32	16
令和1年度	389	372	38	51	18	29	19	52	24	19.5%	231	59.4%	3	13	72	18.5%	40	10.3%	0	0	13	17
令和2年度	313	291	26	45	21	22	12	33	10	13.7%	169	54.0%	0	17	47	15.0%	37	11.8%	0	0	21	22
令和3年度	339	328	37	32	25	27	21	47	12	17.4%	201	59.3%	3	12	46	13.6%	40	11.8%	0	0	26	11

市内中学校卒業生数の推移と予測（含社会増減）※県教委調べ

		H 15.3 卒業	H 30.3 卒業	H 31.3 卒業	R 2.3 卒業	R 3.3 卒業	R 4.3 現中3	R 5.3 現中2	R 6.3 現中1	R 7.3 現小6	R 8.3 現小5	R 9.3 現小4	R 10.3 現小3	R 11.3 現小2	R 12.3 現小1
志摩市	卒業生数	653	432	400	389	313	338	343	336	293	320	298	247	282	280
	前年度対比			-32	-11	-76	25	5	-7	-43	27	-22	-51	35	-2
	R3.3対比						25	30	23	-20	7	-15	-66	-31	-33

県立高等学校活性化計画（平成29年度～令和3年度）に基づく活性化の取組

1 学年3 学級以下の小規模な高等学校においては、学校ごとに活性化協議会を設置して、市町関係者、地元産業界の地域関係者と学校の魅力向上とそれに伴う入学者の増加をめざして具体的方策を協議し、地域の状況、学校・学科の特色などをふまえ、「活性化プラン」を策定して、地域と一体となった活性化の取組を推進した。

- （１）地域と連携した教育の充実
（地域課題解決型キャリア教育モデル構築事業等：R 1 ～ 3 年度）
- （２）課外活動
- （３）高校生地域創造サミットの開催
- （４）市町からの小規模校支援策
- （５）学校の情報発信・P R 活動
- （６）県外からの生徒募集活動

県立高等学校活性化計画にかかる小規模校活性化の総括的な検証

志摩高校 協議のまとめ （令和3年度第2回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会 配布資料【抜粋】）

- 志摩高校は志摩市唯一の普通科高校として、地域と連携・協働し、探究活動「志摩学」をはじめとする地域の教育資源を活用した特色のある教育活動を展開し、生徒のキャリア育成や志摩市を担う当事者意識を醸成するとともに、地域に愛され、地域とともにある学校を目指して学校活性化に努めてきました。また、志摩高校の様々な取組について情報を発信し、地域からの認知を得るとともに、地域の中学生等への丁寧な説明を行うことで進学希望者の確保を目指してきており、例年、生徒の9割以上が志摩市内中学校出身者となっています。
- 地域の教育資源を活用した特色のある教育活動の展開に加え、志摩高校ではすべての生徒に対する基礎学力の定着と進路実現に向けた指導の充実、教育・医療分野の上級学校への進学希望生徒に対する指導の充実等、きめ細やかな教育活動をおこない、一定の成果をあげてきました。また、部活動においても、ここ数年の間に相撲部のインターハイ出場、美術部の国際美術展最優秀校賞受賞などの成果をあげています。
- 一方で、志摩市においてはもともと伊勢方面への志向が強く、鉄道・バスの利便性が高まったことや、令和2年度からは私立高等学校の授業料が実質無償化になったことから、伊勢市内の高校へ進学する生徒の割合がますます高くなっている状況であり、様々な取組が志摩高校への進学者増にはつながっていません。今後の市内中学校卒業生数の推移を考慮に入ると、志摩高校の入学増のためには、志摩市内中学校からの進学者を増やすとともに、志摩市以外からの入学増も必要ととらえ、市外に向けた広報活動にも取り組んでいるところですが、市外からの入学者はごく限られた人数に留まっています。
- 志摩高校は現在、1学年2クラス、2学年2クラス、3学年3クラスの計7クラスに223名の生徒が在籍し、これに対して常勤の教諭・臨時的任用講師は短時間勤務を含めて22名となっています。現状でも校務分掌や教育活動、部活動の顧問等において人員が不足しており、一人の教員が複数の役割を担わざるをえず、生徒の幅広いニーズにきめ細やかに対応していくことが困難になりつつあります。また、生徒数や教員数が減少したことにより、令和3年度の部活動は令和2年度から3部減少した13部となりました。令和4年度の募集は2クラスとなっており、それに伴って教職員数や学校全体の生徒数が更に減少することから、志摩高校の特色であるきめ細やかな教育活動の継続や、生徒のニーズに対応した部活動の実施は困難になることが予想されます。
- 将来この地域を担うことのできる人材育成に向けて、今後も、生徒一人一人の多様なニーズに応えることができるきめ細やかな教育活動を行い、また、生徒が集団の中で互いに成長していく場を提供し続けることが重要です。少子化がさらに進行する中で、その実現に向けて志摩高校だけで完結させることにとらわれず、伊勢志摩地域全体を見渡して、高等学校の果たす役割と望ましい学校規模・配置について、早急に検討をしていく必要があると考えます。

県立高等学校活性化計画にかかる小規模校活性化の総括的な検証

水産高校 協議のまとめ （令和3年度第2回伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会 配布資料【抜粋】）

- 水産高校は県内唯一の水産学科を有する高校として、地元志摩市や水産関連施設等と連携・協働し、各学科・各コースが水産の専門的な知識や技術と地域産業の資源を活用し、県内水産関連産業の現状と課題を探りながら、改善提案を行う探究活動を展開するとともに、大型実習船での操業実習、海洋環境調査、国際航海を通じて、水産関連産業の担い手育成に取り組んできました。
- 更に、資格対策課外講座体制の充実によって、水産・海洋系の教職員の養成や高度な海技士資格を目指す専攻科への進学希望者の増加に努めてきました。
- 一方で、地域の少子化が進行する中、入学者の確保に向け、こうした活性化の取組を積極的に情報発信するとともに、志摩市の協力も得ながら市内中学校対象の出前講座等をとおして魅力発信に取り組んできましたが、市内からの入学者は減少しました。また、市外遠方の中学校に対しては個別に訪問し魅力発信を進めたことで、入学者数は微増しましたが、全体では入学者数の増加にはつながっていません。市内中学校からの水産高校への期待は、以前に比べ高まってきているものの、子どもたちの多様化する進路希望を実現するため、伊勢市内の高校への進学志向が強く、本校の水産学科だけでは対応ができていません。他方、市外遠方や県外からの入学者数は、交通不便の環境下においても増加傾向にあるものの、受入先（下宿）の開拓・確保が進まないことが課題となっており、積極的な入学生の募集が難しい状況にあります。
- 水産高校では、基礎学力の定着と専門性の深化に向け、現在、水産学科と共通教科の教科横断的な学びを推進しています。しかし、共通教科の教員はほとんどの教科で1名配置となっており、選択科目の充実や組織的な進学支援体制づくりなど難しい状況です。また、部活動についても団体スポーツ競技に挑戦する部員不足や水産高校ならではの種目を設置しようとすると、現在ある部活動の継続が難しくなるなどの課題があります。
- このことを踏まえ、今後更に少子化が進む中、子どもたちの多様な学びを実現し、将来の水産業と伊勢志摩地域を担う人材を育成していくためには、伊勢志摩地域全体を見据えて、適切な学校規模と配置を協議・検討していく必要があると考えます。

計画策定の趣旨

- 社会・経済のグローバル化やA Iをはじめとする技術革新の急速な進展による産業構造や雇用環境の変化、少子・高齢化、環境問題など、教育を取り巻く状況は大きく変化している。また、国においては、学習指導要領の改訂や、G I G Aスクール構想の進展など、教育改革が急速に進められている。このような高校教育を取り巻く環境の変化や課題に的確に対応し、持続可能な社会を築くことができる人材を育成していくことが求められている。
- 今後、県内中学校卒業者のさらなる減少が見込まれるとともに、生徒の学びのニーズが多様化している中、高等学校が活力ある教育活動を行い、生徒にこれからの時代に求められる学びを提供し、生徒の社会性・人間性を育む場であり続けられるよう、地域の状況や学校の果たす役割、学校の特色等もふまえつつ、これからの子どもたちにとって魅力ある県立高等学校のあり方やさらなる活性化について検討し、実現していく必要がある。
- 現行の県立高等学校活性化計画が令和3年度末で終了することから、社会状況の変化等に対応した新たな活性化計画を策定する。

計画期間

令和4年度～8年度（5年間）

3 高等学校活性化の基本的な考え方

少子・高齢化のさらなる進行、グローバル化やデジタル化の進展等により、これまでの社会のシステムや人々の価値観も大きく変化することが見込まれる中で、こうした時代を生きていく子どもたちにとっては、変化を前向きにとらえ、課題と主体的に向き合いながら、自ら学び、考え、多様な人々との協働をとおして、持続可能な社会の創り手となっていくことが求められる。

（1）自律した学習者を育てる学びの推進

- 自分の興味や関心、いま学んでいることと将来とのつながりを意識しながら自己の生き方や進路について主体的に考え、行動していくことのできる力を育む学びを推進する。
- つまずきや失敗など困難な状況に際して、周りからの支援も得ながら、しなやかに対応していくことのできる力を育む学びを推進する。
- 基礎的・基本的な知識・技能等の習得を基礎としながら、教科横断的な視点から創造的・論理的に考えることのできる力を育む学びを推進する。
- 実社会で起きている出来事や問題、社会の変化に関心を持ち、新たなことを学び挑戦し、創造する意欲を高める学びを推進する。
- A I やビッグデータ等の先端技術や I C T 機器等を積極的に活用する力を育む学びを推進する。

（２）これからの社会の担い手となる力の育成

- ・ 自他の生命を尊重する心や思いやりの心、規範意識などを身につけ、他者とともによりよく生きようとする態度を育むとともに、一人ひとりが大切にされる社会の実現に向けて行動する力を育成する。
- ・ 自分の考えを持ち、他者の意見を受けとめ、課題解決に向け、協働してよりよい方策を見出していくことのできる力を育成する。
- ・ 異なる文化に対する理解や郷土への愛着、語学力やコミュニケーション能力など、世界にあっても地域にあっても活躍できる力を育成する。

（３）誰一人取り残さない教育の推進

- ・ 特別な支援を必要とする生徒、不登校の状況にある生徒、日本語指導が必要な生徒、経済的困難な状況にある生徒、義務教育段階の学び直しが必要な生徒等が安心して学ぶことができる教育環境の整備や一人ひとりの状況に応じた教育を推進する。

（４）人口減少に対応した学びの推進

- ・ 中学校卒業者の急激な減少の中、令和２年度に生まれた子どもが中学校を卒業する15年先を見通しながら、生徒の多様なニーズに対応するとともに、これからの地域社会や産業を支える人材の育成に向けた普通科、専門学科、総合学科、定時制、通信制の学びの改革に取り組む。
- ・ 生徒の興味・関心を高め、協働的な学びや学校行事、部活動を通じた社会性・人間性をより一層育むことのできる教育環境の実現に取り組む。
- ・ 今後の中学校卒業者の減少等をふまえ、地域における高等学校全体の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で高等学校の統合についても検討する。

（５）子どもたちに必要な学びの実現に向けた教職員の資質向上と学校経営改善

- 社会や学校教育を取り巻く環境の変化に柔軟に対応し、生徒から信頼され、生徒を自律的な学習者へと育てる伴走者としての教職員の資質向上に取り組む。
- 校長が地域や生徒の声を聞き、教職員と対話しながら、リーダーシップを発揮し、学校内外の人材を活用してさまざまな課題に対応していくことのできる学校マネジメントの推進と学びの変革に向けた不断のアップデートに取り組む。

4 基本的な考え方をふまえた県立高等学校活性化の取組

（１）自律した学習者を育てる学びの推進

①基礎・基本を重視し自己肯定感を高める教育の推進、②キャリア教育の推進、③探究活動の推進、④高等教育機関等と連携した教育の推進、⑤地域に根ざした教育の推進、⑥ＩＣＴの活用による学びの推進

（２）これからの社会の担い手となる力の育成

①よりよく生きようとする態度の育成、②社会の一員としての自覚と責任感の育成、③グローバル教育の推進

（３）誰一人取り残さない教育の推進

①特別な支援を必要とする生徒への支援、②不登校の状況にある生徒等への支援、③日本語指導が必要な生徒への支援、④経済的困難な状況にある生徒への支援、⑤学びに向かう力を育む教育の推進、⑥交通が不便な地域における生徒の学習機会の提供

（４）人口減少に対応した学びの推進

①協働の学びの機会の確保、②学習活動の機会の確保

（５）子どもたちに必要な学びの実現に向けた教職員の資質向上と学校経営改善

①教職員の育成、②授業力の向上、③組織運営体制の強化による教育活動の活性化

（６）これからの時代に必要な力を育む県立高等学校の各学科・課程の活性化

①普通科・普通科系専門学科、②職業系専門学科、③総合学科、④定時制課程・通信制課程

5 これからの時代に求められる学びを提供できる県立高等学校のあり方

- これからの高等学校は、生徒の個性と能力を伸ばしつつ、予測困難な時代を豊かに生きるために必要な力を育み、持続可能な社会の創り手を育成することが求められている。そのため、生徒一人ひとりの興味・関心を高める教育に加え、協働的な学びや学校行事、部活動等を通じ、多様な考え方や価値観にふれ、互いに協力しあったり、切磋琢磨したりしながら、豊かな社会性・人間性を身につけられる環境が一層重要となっている。
- 平成29年度から地域の協力を得て取組を進めてきた3学級以下の小規模校活性化の検証結果、令和2年度に生まれた子どもたちが中学校を卒業する15年先までの中学校卒業者の減少の状況等をふまえると、これからの時代に求められる学びを提供していくには、現行の高等学校の配置を継続していくのは難しい状況にある。このため、各地域の高等学校の学びと配置のあり方について検討を進め、その中で1学年3学級以下の高等学校は統合についての協議も行うこととする。これらについては、それぞれの地域の活性化協議会において具体的な内容を丁寧に協議することとし、協議が必要となる地域に協議会がない場合は同様の場を設けるものとする。
- こうした検討・協議は、統合という結論ありきで協議するのではなく、地域の実情に応じ丁寧に進めることとし、その際、状況に応じて、これまで取り組んできた、地域と連携した学びや学校独自の学びについての継承、交通が不便な地域における学びの機会の提供方策、分校化や校舎制への移行などについて協議することとする。
- 1学年3学級以下の高等学校のうち、他の高等学校では担うことが難しい県内唯一の学科や学びの形態を有する高等学校は、引き続き活性化に取り組むこととする。
- 入学者が2年連続して20人に満たず、その後も増える見込みのない場合は、募集停止とすることとする。
- 次代の担い手となる三重の子どもたちがこれからも安心して学び、豊かな社会性・人間性が育まれる高校教育を進めていく。

県立高等学校活性化計画（三重県教育委員会 令和4年3月策定）【抜粋】

（資料） 県立高等学校（全日制）における学級数の状況（令和3年度入学生）

地域名	<u>2学級</u>	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級	学校数
桑名			桑名工業(工)	桑名北(普)		桑名西(普) いなべ総合学園(総)	桑名(普・理・看)	5
四日市			菰野(普)	四日市中央工業(工) 朝明(普・福) 四日市四郷(普) 四日市農芸(農・家)	四日市西(普) 四日市商業(商)	川越(普・英) 四日市工業(工)	四日市(普) 四日市南(普)	11
鈴鹿・亀山		石薬師(普)	飯野(他・英)	稲生(普・体) 亀山(普・情・家)	白子(普・家)	神戸(普・理)		6
津		白山(普・商)		久居(普)	津工業(工) 津商業(商) 久居農林(農・家)	津東(普)	津(普) 津西(普・国)	8
松阪	飯南(総) 昴学園(総)		松阪商業(商・国)	松阪工業(工) 相可(普・農・家)		松阪(普・理)		6
伊勢志摩	南伊勢(普) 鳥羽(総) <u>志摩(普)</u> <u>水産(水)</u>		伊勢工業(工) 宇治山田商業(商) 明野(農・家・福)	宇治山田(普)		伊勢(普)		9
伊賀	あけぼの学園(総)			名張(総)	名張青峰(普)	上野(普・理) 伊賀白鳳 (工・商・農・福)		5
東紀州	紀南(普)		木本(普・総)	尾鷲(普・商・工)				3
学校数	8	2	8	13	7	10	5	53

本日、意見交換したいこと

- 市内県立高校の存続に向けては、生徒・保護者に「選ばれる」ことが必要。
- 生徒・保護者が高校に求めていることは何か。進学のための教養か、それとも就職のためのスキルなのか、生徒・保護者の希望を把握し、希望に沿った学校をつくることが必要ではないか。
- また、高校に進学する前の小・中学校の段階で、将来の自分のキャリアについて、思い描いていただくきっかけを作る、手法を具体的に考えることが必要ではないか。
- 今後の県立高校のあり方として、志摩市の歴史や産業構造を軸において、どのようなビジョンを描くとよいか。
- さらに、地域として、どのようなアクションが必要か。